



TITLE:

米洲行日誌(9)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 米洲行日誌(9). 天界 1938, 18(203): 145-147

ISSUE DATE:

1938-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167611>

RIGHT:

## 米 洲 行 日 誌 (9)

京都帝大教授 山 本 一 清

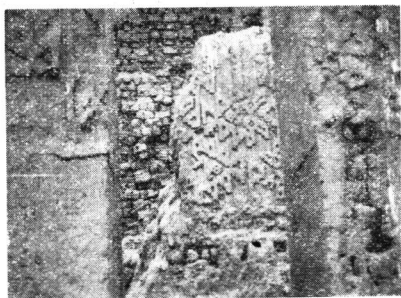
1937年6月13日(日曜日)

9時半、三人で日本公使官邸に藤村代理公使を訪ひ、挨拶と共に、トルヒヨ滞在中の萬事を報告をし、今後の日程を打ち合はせした。それから、11時半にはサンマルコス大學にガルシヤ學長を訪ひ、こゝでも挨拶と打ち合はせ、午後には榊氏に連れられて教會禮拜に出席した。柴堀兩君は午後は入舟氏の案内で市内外ドライブ。

17時、ラルコ名譽領事がホテルに來訪されたので、觀測狀況の詳細を報告した。

6月14日(月曜日)

市内の寫眞店で現象を依頼して置いたワンチャコの日食の活動フィルムが出來上つて來た。虫メガネで詳細に調べて見ると、コロナと閃光スペクトルと



チャンチャン遺跡

は見事に現はれてゐるが、部分食は狙ひが狂つたらしい失敗である。

サンマルコス大學は本日午後、自分のために名譽學位授與式を擧げる筈であつたが、總長の都合で、18日に延期された。

17時半、吾々3人はフィシャ博士始め米國觀測隊員たちと共に、リマ地理學協會に招かれ、“名譽會員”に推薦された。式場で、フィシャ氏と自分とは夫れ々々一場の演説をした。式後、圖書館を參觀する。

22時、ラルコ名譽領事をホテル・マウリに訪ひ、雜談した。

6月15日(火曜日)

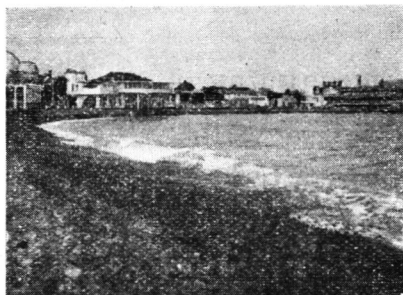
計算の必要上、昨日サンマルコス大學から借りた米國天體曆書を、今朝返却した。

15時、佐藤氏が撮影した日食映畫をアグファ寫場で見た。素人としては中々立派な成績であるが、望遠レンズによるコロナの撮影の方が更に良い。

## 6月16日(水曜日)

フィシヤ博士の薦めにより、14時から當市ラデオ・ナショナル放送局より米國隊員と共に日食に関する放送をした。

自分等は各人3分乃至5分の朗讀講演(英語)をしたのであるが、前後に音楽があつたりして、中々賑々しい放送であつた。之れは全部ニウヨークに中繼され、それから全世界に放送された筈である。



カヤオの海岸

16時、放送局から宿に歸つて見たら、

セロ・デ・パスコへ單獨に日食觀測に行つて居たステビンス博士夫妻が此の宿に歸つて來て居たので、ロビーで會見し、4年前、キルソン山で會つた以來の話に耽つた。氏の談によれば、今回のコロナは満月よりも25%だけ明るかつた由。尙ほ同氏等は今夜多くの米國觀測隊員と共に同船でカヤオを出帆、歸國する。

夜は杉内氏等の厚意により、公使館で吾等の日食の活動映畫を映寫して見た。22時頃に歸宿。

## 6月17日(木曜日)

船の都合で、米國隊の出帆は今朝10時となつたが、自分はホテルのロビーで皆と別れの挨拶をした。

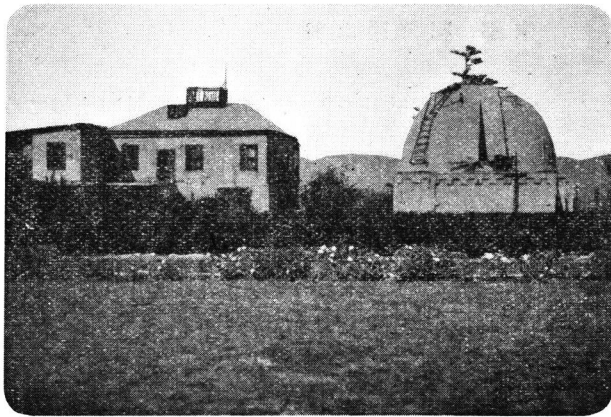
10時、黒飛岸兩氏來訪、それから又、デアンデラス中佐がアレキパ市のロマニヤ氏を連れて來たので、會つた。ロマニヤ氏は米國ハーバード大學天文臺の依托で今回の日食をカスマの奥地で觀測し、コロナの美しい偏光寫眞を撮られた。殊に見事な成績である。

18時半、藤村代理公使主催で、公使官邸にペルー官民數百名を招き、日食觀測記念カクテル・パーティを開かれた。吾々3人も勿論之れに出席した。23時歸宿。

## 6月18日(金曜日)

今日は午後に自分のために大學で名譽學位授與式があり、又自分は第1回學術講演をする筈で、朝から種々準備に忙しかつた。——學位授與式は大學大講

堂で17時半に開かれ、ガルシヤ理學部長の演説があり、次いで總長から自分に學位記と金牌とを授けられた。式は案外簡單であつたが、しかし心地よき嚴肅



アレキパ天文臺跡。

なものであつた。  
式に引き續いて、  
自分は“皆既日食”  
に関する講演をし  
た。20時過まで約  
2時間、通譯なし  
に英語でやつた。  
幻燈や活動映畫を  
多く利用したが流  
石に少々疲れた。  
此の講演はバラレ

ソ助教授により西語に譯されて、市内外に放送されたから、一般の人も聞いてくれたわけだが、講演場内にも約300の聴衆があつた。

夜、21時、約束によりオルベゴソ氏を往訪、同氏がトルヒヨ市内で活動撮影したコロナを映寫して見せて貰つた。去る6日の朝ラルコ邸で自分が話した注意によつて撮影したもので、10厘焦點の望遠レンズを用ゐ、實に見事なものであつた。22時、池山氏を訪ふ。

#### 6月19日(土曜日)

朝、黒飛、岸、池山諸氏來訪。講演の通譯の件について相談した。

18時よりサンマルコス大學で第2回學術講演、題は“變星と新星”，バラレソ助教授が巧みに英語から西語に譯される。講演の内容は一般論であつたが、只特に當國アレキパの天文臺の過去の功績を高調した。ガルシヤ博士以下諸教授學生及び一般社會の人々も多く來聴してゐた。(つゞく)

本會名譽會員たる守屋荒美雄氏は去る2月8日、東京市牛込區矢來町140の自宅にて逝去されたり。享年67。謹みて哀悼の意を表す。